

美術館 部会における検討結果について

第3回美術館運営検討部会の主な意見

全体

- ①美術の森公園と一体となった見直しについては、市全体で中長期の視点で検討が必要。
- ②ネーミングライツや趣旨に賛同する企業と事業で連携するなど、様々な民活の形がある。
- ③これからの指定管理は行政の請負ではなく、得意な部分で協力し合い、付加価値を共創する形を目指す必要がある。

個別

◆広報・イベント

- ①広告代理店を入れるなど、専門家の助言があればより良いものができる。
- ②教育普及は学芸員等専門家の役割だが、ワークショップやイベントには企業や教育現場の協力を得てはどうか。
- ③渉外、マーケティング、資金調達など、民間の力を活用できる。
- ④展覧会もマーケティングの専門家と一緒に作り上げれば、より良いものができる。

◆ショップ

- ①友の会が運営しており、収益を目的としていない。市職員が事務をやっている魅力的な商品開発ができず、限界がある。
- ②美術館の付加価値向上において、ショップは重要であるため、民間ノウハウの更なる活用を検討すべき。



今後の方向性

- ①美術館のこれまでの歩みや施設、コレクションなどの価値を再確認する
- ②北九州市立美術館のミッションを踏まえ、果たすべき機能と現状の課題を整理し、民間ノウハウの活用方法を検討する

新しいミッションに向けた変革の在り方について

これまでの会議で共有した意見

- ①美術館は社会教育施設として地域への貢献が重要 合わせてコレクションの充実も必要
- ②社会教育機能を継続的に確保するため、学芸機能は直営が望ましい
- ③広報やイベントなどは、民間ノウハウの活用が期待される
- ④学芸員による展示について、見せ方の工夫などに民間ノウハウの活用が期待される
- ⑤指定管理など新しい仕組みを導入するのであれば、美術館のミッションにそった仕組みを構築すべきであり、事例研究の時間や労力、適切な運営費用等が必要



議論における重要な視点

- ①美術館は社会教育施設に加えて文化観光施設としても地域へ貢献する必要がある
- ②美術館の持続可能性を確保するためには、集客や収支の課題と向き合う必要がある

第4回部会の主な論点

- ① 更なる地域活力向上や地域貢献に向けて、北九州市立美術館に必要な取組みは何か
- ② ①を踏まえたうえで、北九州市立美術館に必要な民間活力とは何か
- ③ 北九州市立美術館の機能で、民間活力の導入が期待される機能はどこか

ミッション実現に向けた機能別の民間ノウハウ活用検討事項

【ミッション】北九州市立美術館の基本理念「市民の生活に潤いと心の豊かさを創出し、地域と一緒に成長する美術館」を体現しつつ、改正博物館法に掲げる学術及び文化の振興、文化観光の推進にも努め、多くの人を惹きつけて、地域活力の向上に寄与する。

機能	目的・目標	変革に向けての検討事項		
		短期	中期	長期
運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・効率化 ・コストの最適化 ・施設の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業務の見直し(一本化など) ・ユニークベニューとしての施設活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理やPFIなど、民間活力の導入を検討 ・あわせて美術の森公園の活用を検討
企画展 コレクション 展	<ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの充実 ・魅せる展示 ・入館者増 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間人材のアイデア活用等によるマーケティング力強化 ・パートナーズ制度の見直し 	企業協賛の拡大(ネーミングライツ、友の会パートナーズ制度拡大)	
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージアップ ・入館者増 ・都市ブランド向上 	民間人材のアイデア活用等による広報力強化	広告代理店等民間委託の導入	
ショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある商品開発 ・購買意欲を喚起する陳列 ・収益増 	友の会事業の見直し(方針見直し、体制強化など)	民間委託の導入	
教育普及 事業	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある事業展開 ・次世代の育成 	教育現場、市民団体との連携強化	民間企業の協賛事業	

運営見直しの方向性

- ①短期的には、美術館の各機能の目的達成に向けて更なる民間ノウハウの活用を推進
- ②中長期的には、美術館のミッション達成に向けて民間活力の導入を検討し、あわせて美術の森公園の活用も検討

機能	主な意見
1. 総論	<ul style="list-style-type: none"> ①学芸機能は直営を維持する。 ②民間活力の導入については、短期～長期のスパンで検討を行う。 ③常設展入館料の適正な価格などについても今後は検討すべき。
2. 運営管理	<ul style="list-style-type: none"> ①建物の良さを活かした建築観光やユニークメニューなど、民間のアイデアで施設を有効活用するため、スペースの貸出ができる仕組みが必要。 ②民間的視点を取り入れ、職員のコスト意識を上げる。
3. 企画展 コレクション展	<ul style="list-style-type: none"> ①ポピュラーな展示と市がやるべき展示のバランスが重要。 ②マーケティング強化で見せ方に工夫を。 ③多客イベントと企画展とが一体となった取り組みが必要。
4. 広報	<ul style="list-style-type: none"> ①実行委員会のマスコミをもっと活用すべき。 ②まず市職員が見に来るような働きかけが必要(美術館愛の醸成)。 ③情報収集し、ターゲットにあわせた広報をするには民間の力が必要。 ④学芸員と密接な広報は効果が高い。
5. ショップ	<ul style="list-style-type: none"> ①カプセルトイなど来館者の関心を引く取り組みが必要 ②地元アーティストの作品販売や企業コラボ商品の開発、パートナーズ制度の活用などの検討が必要。
6. 教育普及事業	<ul style="list-style-type: none"> ①多くの人数を集めて、すそ野を広げるイベントをする際は、民間やNPO等の力やアイデアがあるとよい。 ②スペースを作家に貸してワークショップを実施するなど工夫が必要。